

ドキュメンタリー映画 高橋慎一・監督作品

『Cu-bop across the border (キューバップ アクロス・ザ・ボーダー)』



『PAN AFRICAN FILM FES』 (2015年 米国・ロサンゼルス) オフィシャルセレクション作品

『AFI DC Caribbean film Fes』 (2015年 米国・ワシントンD.C.) オープニング上映 "The Opening Night" 選出作品

『African Diaspora International Film Fes』 (2015年 米国・ニューヨーク) 「BEST OF ADIFF2015」選出作品

『United latino International Film Festival 2016』 (2016年 米国・オハイオ) オフィシャルセレクション作品

二人の天才ミュージシャン。一人はキューバへ残り、一人は国交の無い
ニューヨークへと去っていった。家族と仲間が待つ故郷へ放蕩息子が
帰ってくる時、一回だけの感動のセッションが始まる

2018年 日本/キューバ Total time 98min

スペイン語/英語 (日本語字幕) ©Kamita Label

配給 ぴあ株式会社

映画facebookページ <https://www.facebook.com/kamitacio>

映画twitter https://twitter.com/CuBop_kamita

Kamita Label (カミータ・レーベル) 東京都墨田区両国 1-3-9 ムラサワビル 1-3F

email.kamita0147@gmail.com

○2015年夏、渋谷のミニシアターで、1本の映画の上映がひっそりとスタートした

キューバのミュージシャンたちに密着し、ハバナとニューヨークを行き来して作られたドキュメンタリー映画『Cu-Bop』は、総制作費300万円、宣伝費0円の自主映画にも関わらず、観た者の熱狂的な支持による口コミとSNSにより、劇場は連日超満員の観客で溢れかえった。映画は6回に及ぶ延長上映を繰り返し、半年間に及ぶ異例のロングラン上映を記録した。

「アップリンク」での上映後、『Cu-Bop』は日本と米国の各都市を交互に巡回上映し、各地に作品を応援する支持者を増やしていった。1人のフォトグラファーが、ハンデイクラムを片手に映画と音楽への情熱に突き動かされて完成させた作品は、各分野のプロフェッショナルなクリエイターたちを刺激し、“より多くの人、より多くの世界へ”届けるためのプロジェクトチームが新たに結成されることとなった。1年間に及ぶ入念な再撮影、再編集によって新たに完成したのがこの世界公開版『Cu-Bop across the border』だ。

○日本/キューバ 合作映画が米国・ロサンゼルスで 奇跡のワールドプレミア上映

映画『Cu-Bop』は、困難に直面しながらも、それをものともせず、自分の音楽を演奏し続けるキューバのミュージシャンたちを記録したドキュメンタリー作品だ。キューバに残り音楽活動を続ける者、ジャズの本場であるアメリカ合衆国に移住する者…。その両者の元へ、監督自らカメラを持って自宅に泊まり込み、寝食を共にしながら『音楽が生まれる瞬間』を記録する取材方式によってこの映画は撮影された。ハバナの片隅の古びた住宅地、ニューヨーク・ハーレムのディープなラテン人居住区、カメラは驚く程近距離でミュージシャンたちを記録し、生活と共にある本物のキューバ音楽を生き活きと描き出してゆく。

2015年に完成した本作は、同年米国・ロサンゼルスで 行われた国際映画祭『PAN AFRICAN FILM FES』のオフィシャル・セレクション作品に選出。キューバ が舞台となる自主制作映画で ありながら、国交断絶中の米国・ロサンゼルスで ワールドプレミア上映が行われる快挙を達成した。続く6月には米国最大の映像団体AFI（アメリカン・フィルム・インスティテュート）がワシントンD.C.で主催する『D.C.Caribbean film fest』で上映。同映画祭では、ラテンアメリカ各国が多数の大規模な製作体制の映画を送り込む中、オープニング上映作品“The Openig night”に選出。AFIが所有する大型シアターでの監督トークも開催された。

12月には映画の撮影地であるニューヨーク・ハーレムで開催される映画祭『African Diaspora International Film Fes』の注目上映作品“CENTERPICE”に選出。映画上映と共に主人公であるピアニスト、アクセル・トスカのコンサートも同時開催され、ハーレムの観客たちに大歓声で迎えられた。米国とキューバの国交正常化が急ピッチで進むいま、ワールドワイドな規模で注目される作品である。

○100人を越えるパトロンが結集、予算300万円の自主映画に多くの観客が喝采した

完全な自主制作で 作られた『Cu-Bop』は、創作の自由を貫くために製作資金集めも独自の方法によって行われた。まず は国内クラウドファンディング最大手の一つ『キャンプファイヤー』にて、製作資金を公募、自主映画のクラウドファンディングとしては異例の、達成率200%、60万円の支援金が集められた。『キャンプファイヤー』の締め切り後もyoutubeで 予告編を観た音楽ファンから、映画の公式ブログへ「資金を提供したい」とのメッセージ が多数寄せられ、facebookとブログでクラウドファンディングを再開。リターン商品で あるレーベルのCDが品切れとなり募集を途中で 打ち切る事態となった。最終的にトータル110人のパトロンから108万円の支援金が集まった。映画製作の総 予算は約300万円。ハリウッドの映画監督協会での質疑応答で、監督が「ドネーション(寄付)で 1万ドル、自分の出資で 2万ドル、合計3万ドルで この映画を作った」と語ると、居合わせた観客、関係者から驚きの声と拍手喝采が起った。

○キューバ・ジャズ界の重要アーティスト達

出演はセサル・ロペスと、彼が率いるキューバを代表するジャズバンド『アバナ・アンサンブル』。そして、2008年にキューバからアメリカ合衆国へ移住したピアニスト、アクセル・トスカと、彼がニューヨークで出会ったミュージシャンたちと結成したジャズバンド『(U)nity ユニティ』。

その他、ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブの新ピアニストとして活躍するロランド・ルナ、世界的コンガ奏者のアデル・ゴンサレスと、キューバを代表するミュージシャンたちが数多く出演している。映画のラストには、ニューヨークへと渡った若き無頼派ピアニスト、アクセル・トスカのキューバ帰国ライブが収録されている。迎え打つのは天才サクソ奏者セサル・ロペス。米国/キューバ両政府の正式な許可を得ないまま行われた異例のセッションは、どんな結末を迎えるのか。住む国が変わっても、関係なく熱く鳴り響く彼らの演奏に、耳を傾けてほしい。

○ものがたり

「ニューヨークから禁断の祖国・キューバへ。国籍が、肌の色が違っても、音楽があれば俺たちは手を取り合える」

『Kamita Label』はキューバ音楽のCDを制作する、日本人によるプロジェクト・チームだ。2000年のレーベル設立以来、数多くのCDをプロデュースし、キューバ国内の権威ある音楽賞にノミネートされるまでになった。しかし、近年になりキューバ音楽を取り巻く状況が大きく変化し始め、録音に参加した音楽家たちの生活も一様ではなくなった。キューバのNo.1サクソ奏者セサル・ロペスは祖国での活動を続ける選択をした。社会主義を堅持し、モノ不足が慢性化したキューバでは不自由な生活が当たり前。ジヤズの音源チェックは古道具屋で漁ってきたレコードで行い、自宅倉庫を改装した即席の音楽スタジオにオンボロ楽器を持ち寄って、音楽仲間と熱いセッションを繰り返す日々。一方、若き天才ピアニストのアクセル・トスカは、6年前に海外ツアーへ出た折、ニューヨークの音大のスカラシップを獲得して米国へ移住した。キューバとは長年、政治的敵対関係が続くアメリカ合衆国。あこがれ続けたジヤズの聖地で理想の音楽を追求するが生活は決して楽ではなく、地下鉄に乗る金にも事欠き、ハーレムのホロアパートでコッペパンをかきつけて糊口をしのぐ毎日。こんな生活でも、数年前に経験した宿無しの日々を思えば、いくらかマシなのだが。

米国とキューバ、セサルとアクセルの日常に触れた『Kamita Label』運営チームは、キューバでのレコーディングライブを企画する。アクセルのバンドメンバーは、一人は米国人ルケス・カーティス、もう一人はキューバからの亡命者を父に持つ在米キューバ人のアマウリ・アコスタ。それぞれにキューバ音楽への熱い想いを抱いた2人は、アクセルと共にキューバにやって来るようになった。キューバ、米国両政府の正式な許可を得ないまま、メキシコシティを経由してとうにかハバナの空港へと降りたアクセル一行。そして彼らが繰り返す熱いライブが、キューバの若者から政府の役人まで、多くの人々の心を動かしてゆく…。

○『Cu-bop』監督が語るアーティスト紹介

セサル・ロペス César López

「今まで、何百人という世界中の音楽家のステージを撮影してきた僕が断言する、世界最高のサクソ奏者。難点はセサル本人が天然過ぎて「自分は天才だ」という自覚が無いこと」

若干19歳で世界的ジャズバンド『イラケレ』に参加、すぐに頭角を現し天才プレイヤーとして注目される。ステイキング、チック・コリア、ハービー・ハンコック、ウェイン・ショーターなど世界的ミュージシャンと共演した、キューバのNo.1サクソ・プレイヤー。

アクセル・トスカ Axel Tosca

「こいつとガチでつき合うことで、僕の寿命は5年は縮まった…。『バカと天才は紙一重』って言葉そのままの、取扱い注意なピアニスト。本物のバカにしか、こんな感動的な演奏は出来ないんだろうな。幼少の頃よりピアニストとして活動し、2008年、アメリカ合衆国に移住。ニューヨークで活動するバンド『Yerba Buena』のメンバーとして、米国・グラミー賞にノミネートされる。スティーブ・ガット、ウィントン・マルサリス等ジャズ界のトップアーティストと多数競演している。



○スタッフ

製作／Kamita Label

本物のキューバ音楽を探求し続け、世界中のコアな音楽ファンから高い評価を得ているカミータ・レーベル。写真家・高橋慎一とキューバ音楽研究家・二田綾子によって2000年に設立されたこのレーベルは、今までに12タイトルのアルバムをリリース。オリジナリティ溢れるフォト・ワークと、ハイクオリティなサウンドが詰まったアルバム『ハバナ・ジャム・セッション』シリーズが、ジャンルを越えた音楽ファンの中で大きな話題となる。廃盤となったファースト・アルバムはネットオークションで10,000円以上の高値で取引されている。2006年に『Habana Jam Session』、そして2013年には『Los CUBANOS/Cu-Bop』がキューバのグラミー賞「CUBADISCO」にノミネートされ、ワールドワイドなリスナーを獲得している。

監督・撮影／高橋 慎一

1969年生まれ 東京工芸大学卒

1990年代から、写真家／ライターとして活動を始める。キューバには1995年から訪れ取材活動を行い、キューバ音楽・文化に関する書籍を3冊出版している。2000年にKamita Labelを設立し、キューバ音楽のプロデュースを開始。本作『Cu-Bop』が初監督作品となる。約3年に及ぶ「長期撮影で」、次々と襲いかかるトラブル、資金難を乗り越え、執念で本作を完成させた。

著作

2007 『CUBA Trip』(産業編集センター・刊)

2009 『MONDO CUBA』(東京キララ社・刊)

2011 『Lifestyle of CUBA』(織研新聞社・刊)

音楽CD制作

2006 『Habana Jam Session/Crema Nota』(CUBADISCO 2006 ノミネート)

2013 『Los CUBANOS/Cu-Bop』(CUBADISCO 2013 ノミネート)

コメント

「映画の歴史上、最も素晴らしいジャズシーンが収録された1本」

Miki Goral PAN AFRICAN FILM FES ディレクター

「『ブエナビスタ』以降のキューバを、ジャズというアザーサイドから捉えた音楽ドキュメンタリーの傑作。全音楽ファン必見の作品」

菊地成孔 ジャズミュージシャン

「映画『Cu-Bop』はとても多様な音楽を定時する作品だ。儀式を司る太鼓からキューバンジャズまで、演奏の空気感が完璧に捉えられている。それは、キューバが持つ魔術的文化への、力強く情熱的な献身によってもたらされたものだ」

ビル・ラズウェル ミュージシャン

「故国を捨て、不安と焦燥に苦しむ者がいる。故国に留まり、深く研鑽を積む者がいる。『Cu-Bop』は両者の対決に立ち会った、スリリングな音と映像で`ある」

四方田犬彦 映画史・比較文化研究家

「今年の映画はここ数年で一番の豊作。極私的ベストムービーの筆頭をダントツで突っ走るのが『Cu-Bop』と『Brasil Bam Bam Bam』。うーん、どちらがベストか悩ましい…」

須永辰緒 レコード番長/DJ